# 廣福寺だより

6号

## 仏前で当院の結婚式

このほど三条市徳誓寺御住職福井徳融様御夫妻の御媒妁により当寺住職柏原恵信長男雅史と見附市小柳勇様長女みゆきの婚約が整い、**九月二十三日**当寺本堂の尊前で巻町妙光寺御住職井上国輔師の司婚により**結婚式**をあげることができました。将来当寺第十六世の法灯を引き継ぐことになりますが何卒幾久しく御懇情を賜りますよう幾重にも伏してお願いを申し上げます。

新郎新婦は目下東京都で中学校の教職についておりますが今後寺の行事のある折には一日も早く門信徒の皆様のお顔をおぼえ心のふれ合い交流につとめる所存であります。

**新郎新婦の御紹介**　新郎雅史は三条高校を経て昭和五十五年三月日本大学法学部法律学科卒、同月本山仏光寺で得度、僧籍に入り広福寺の寺格を継承同五十七年三月龍谷大学文学部仏教学科卒、現在は東京都多摩市立西落合中学校教諭。新婦みゆきは三条高校を経て昭和五十三年三月文教大学女子短期大学部文芸科卒、現在は東京都立川市立立川第七中学校教諭。現住所は〒190東京都立川市柏町4－51－1柏町団地13－202　電話は0425－37－0553

**和やかに　披露宴**

九月二十四日門徒各位への披露の祝宴が催され本堂に溢れるばかり多数の方々から祝福を頂き本当にありがとうございました。すばらしい司会進行で慶祝気分は盛り上がり歌も踊りも出ました。写真右から歌うは武石宅一氏踊るは本多キミ子さんと名司会を務められた鈴木孝氏。

# 鐘楼再建の議おこる

近年鐘楼の根元が次第に腐朽し修復の必要に迫られておりましたが、本年雪消え後、屋根が傾きねじれて倒壊の危険もあるため報恩講終了後とりこわすことになり鐘楼の再建が世話方会議で鋭意検討されています。

**当寺梵鐘と鐘楼の由来**　記録によれば今から二百七十年前の正徳三年（一七一四）第五世祐円の時代に初めて梵鐘が供養され、この時に当寺下通り門徒（鱸、曽根、升潟）の寄進で鐘楼が建立されたという。この鐘楼が昭和の大火まで二百二十六年間風雪に耐えてきた。梵鐘は後年火災の折村民が激打したため損傷、音色が低くなり明治三十四年第十三世法道の時代に改鋳された。この時三歳だった前住職の記憶によれば境内のもみじの木の下で鐘の内側に火を焚き人夫が大槌で打ち割り下組鎮守社大門わきの心光寺山で炉をつくり門信徒寄進のかんざしなど貴金属も数多く鋳込まれたという。

**午前十一時の時の鐘**　明治三十四年の改鋳以来毎日午前十一時に鐘をつき田畑に働く近郷近在の村民におひるあがりの時の鐘として永く親しまれてきた。昭和三年三月麓の三郎右衛門、高嶋清吉殿が報恩感謝の念から発起人となり**梵鐘講を結成**、桜井郷の村民が講員となり世話人が運営に当たってきた。毎年の講日には布教家を招き演芸講談浪曲など余興もあって盛会を極めた。現在は菅保氏一人が世話人を務め運営に当たられている。

**鐘楼の焼失と仮鐘楼の建立**　昭和十五年五月三日の大火で鐘楼が焼失、梵鐘は大勢の門徒が火焔の中から死守した。楼が倒される時梵鐘が転落したが竜頭の角一本を折損するだけで辛くも火難をまぬがれたという。時の鐘を一日も早く復活させたいと鐘楼再建の議がおこり六月二日境内の焼け残りの樹木を倒し木造丸柱で仮鐘楼を建立した。この仮鐘楼が現在に及んでいる。

**梵鐘の供出と新鋳**　昭和十七年戦時金属類特別回収で供出されることになり、お別れの法要に遠近から数百人が参詣し諸行無常のことわりを身をもって示す梵鐘に別れを惜しみ車に長い綱をつけて弥彦駅まで護送した。故青木庭花老の送別の句〈征く鐘やはなむけはただ念仏（ネブツ）のみ〉がある。戦後サイレンで午前十一時を報じてきたが同三十九年梵鐘の新鋳が計画され同四十一年篤志者本間孝殿の特別懇志上納もあり高岡市老子製作所で口径二尺八寸、二百貫の梵鐘を新鋳、以降は毎朝午前六時の鳴鐘を続け今日に至っている。

**鐘楼堂の再建に御協力を**　鐘楼堂再建のために住職はじめ世話方が十月二十二日、最近鐘楼を再建された寺院を視察、十一月二日の世話方会議で原案を検討し明年お盆までの完工を目途に事業計画を定例各字総代会議にはかることになりました。

門信徒はもとよりのこと広く有縁の方々の愛山護法の御懇念にまたねば、この計画の達成は到底おぼつかないところであります。何卒意のあるところを御賢察いただき、永い世代にわたって護られてきた鐘楼堂を後代に残すため御協力をお願い申し上げます。

## 仏の願いにめざめる

### 大悲の中に生かされている私

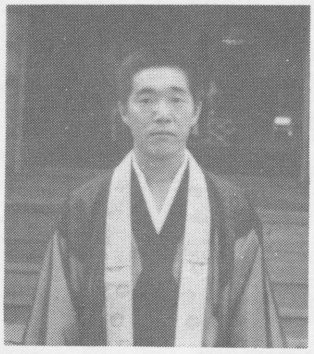
正信偈の前半は大経の心を後半は七高僧の説を説く。極濁悪の悪人こそ救わんとするのが大経の心、それをまとめると南無阿弥陀仏、本願ということ、一切の人々と運命を共にし、汝の悩みをわが悩みとする。この精神が願い、仏の願いにめざめる。釈尊から七高僧を通して聖人に届いた真理、その願いにめざめることを信心と申す。私の心に生きるのでなくて仏の願いに生きるのが念仏者の生活私にかけられた仏の願いにめざめるとき大悲の中に生かされている私を見出す人間への絶対信頼、私が裏切りそむいても気づくまで願いをかけて待ち続ける。そむきに辛抱し何時になったら気づいてくれるかと堪えていく。外に対しては愛と祈り、内にはじっと待つ我慢、極濁悪の苦悩者よ　如来の本願に心を聞き開いてくれよとよびかけてくるのです。

**＜第100回聞法例会正信偈講話の要旨＞**

ことになる。汝の助からぬかぎり私は助からぬという誓いの性格があるので誓願と申す。我汝を信ずる。どこまでも信ずる。そこに南無阿弥陀仏の魂がある。

## 心光寺当院得度、僧籍に入る

心光寺当院柏原了永は本年三月本山仏光寺で得度式を受け僧籍に入り心光寺の寺格を継承しました。今後は仏道に心をいたし門信徒の皆様ともども宗祖聖人のみ教えを仰ぐ同朋の一人として幾久しくよろしくお願いを申し上げます。**＜経歴**　巻高校を経て昭和四十七年三月国学院大学文学部史学科卒、現在は栃尾市立栃尾中学校教諭＞



## 聞法会100回を迎える

### 広沢憲隆師正偈講話終講

毎月二十日を例会とし小針瑞林寺住職広沢憲隆師（写真）を講師に迎えお正信偈のおつとめの後講話、そして座談会で散会とする当寺の聞法会も本年七月百回目を迎え終講となった。**九月から講師に打越仏照寺の花井性寛師を迎え歎異抄講話が始まりました。**鈴木七次郎会長を中心に会員二十数名が気軽に交流できる広場として、よき友よき師との出会いそして仏との出会い、本当の自分との出会いをめざしています。新しい会員の御参加を歓迎します。気軽においで下さい。

**聞法会の歩み**　昭和50年5月結成準備会、6月第1回例会、はじめ仏教入門的な講話に始まり第6回から親鸞聖人の伝記にそって真宗の教えの概略についての講話、第16回から正信偈講話という流れの中で、時には折にふれての法話、仏事のならわしの由来などに及ぶことがありました。長いおつきあいの間に何でもいえる気軽さが定着、七月の生ビール大会、十二月の忘年会など歌もおどりもとび出す和やかなパーティーが恒例の行事として親しまれて本年6月10周年を迎えました。

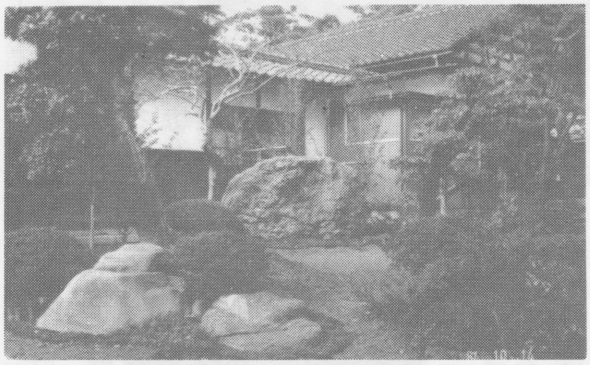
# 造園で境内の面目一新

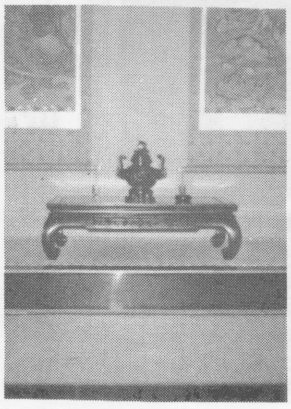
## 御寄進ありがとうございました

本年七月燕市の大谷統司殿の御寄進で境内に造園工事が進められ、十トンを越える大石に梅やもちの木の古木、寺庭にふさわしく沙羅の木などを配し境内も面目を一新しました。なお前住職所望の雪見灯籠が中庭にすえられました。また本堂巻障子、両脇壇両余間上壇彫り物框金具、付帯工事一式（工費三百四万五千円）が前住職子供一同の寄進で整いました。そのほかの御寄進次のとおり。

書院座布団一組　北茨城市　丸山　文吉殿
葬儀用御本尊　麓　山岸　義正殿
同右収納桐箱　境江　武石文太郎殿
高張台塗装工事　麓　武石　重蔵殿
紫地大座布団　弥彦　坂本　トヨ殿
御斎用茶碗　麓　菅　新子殿
書院香炉台　三条市　小野里輪也殿
書院香炉　東京都　柏原　恵行殿

なお結婚式を迎えた当院雅史のために、同じく柏原恵行殿から「織色紋緞子地布袍」（七万五千円）が寄進されました。各位の御懇念に対しまして厚く御礼申し上げます。





写真は造園の全景（上）、参道から見た石組み（中）、中庭の灯籠（下左）、書院香炉と香炉台

## 中興了源上人六百五十回御遠忌法要

### 当寺から団体参拝に十名の方が参加

本年四月の本山仏光寺の御遠忌には全国から一万人の参詣者がはせ参じましたが、教区の団体参拝団に当寺からは十名の方が参加し四泊五日の旅程中、本山の法要参詣のほか上人のお墓のある了源寺や高田専修寺本山などにも参詣しました。お念仏のみ教えを仰ぐ同行としてのきずなを深く胸にきざんで無事帰りました。

**全国門徒總代の集い**　全国から二五〇名が集い、当寺からは山岸義正、大谷統司の両氏から参列していただきました。

**当寺主催の団参企画を検討**　今回の御遠忌団参は農作業の時期とのからみから参加できなかった方々もあり、明年から小規模な団参を当寺で主催してほしいとの声もありますので、本山のお正忌参拝などにあわせ企画を進めたいと検討しております。

発行所　広福寺　〒959-03　新潟県西蒲原郡弥彦村大字麓6590　電話0256-94-2437　印刷　ワノウ印刷